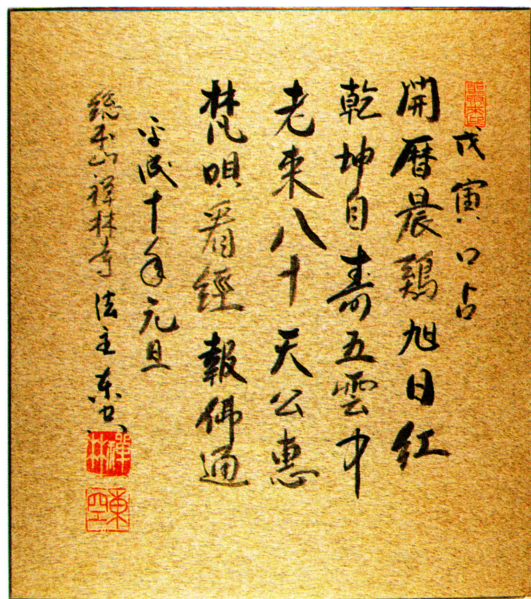


且まず余よ願がんを論ろんずること莫なれ。
 西方さいほうは己おのが心こころに安やすず。

善導大師『往生礼讃』の言葉から――



どうすれば救われるかと、色々いろいろと居おられ
 る仏様ほとけさまや、またその浄土じやうどに思おもいを巡めぐらす必ひつ
 要ようは有ありません。阿弥陀様あみださまとお念仏ねんぶつだけを
 この私わたくしの胸中むねなかに頂いたくことです。

悠々ゆうゆうと歩あるいては歩あるき

そして時ときに立ち止とどまり

あるいは氣早きはやに急いそぎ足あしで

息いきせき切きってがむしやらに

兎とも角かくももうそこそこに海うみが見みえる

ふるさとは近ちかい

焦あせることはな案あんじることもない

潮騒しおさいが私わたくしを導みちびいてくれる

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は菅長森準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、高知県安芸市在住 荒川侃水様に贈呈いたします。
 ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

じゅみょう
げんりょう
寿命よく限量なし

— 無量寿経 —

壽命
無量

総本山 禅林寺 法主 永観堂 禅林寺
西王

「二十歳なら時速二十キロで、六十歳なら時速六十キロで、時」が過ぎ去って行く」と聞く。これは、同じ時間なら、若い時の方が沢山の事をやれるからである。だから若い時の方が時の流れもゆっくりと感じられる。その一方で、「年取ったら一年の過ぎるのは早くても、一日がとて長い」とも聞く。

百歳を超えた老師が、「人生を振り返って、一番充実していたのは何時でしたか」と問われた時に、「今です」と応えて居られた。時間に執われず、年齢にも執われず、「今」を大切にされているからであろう。「今を生きる人」は、まこと「老いる」事がない。

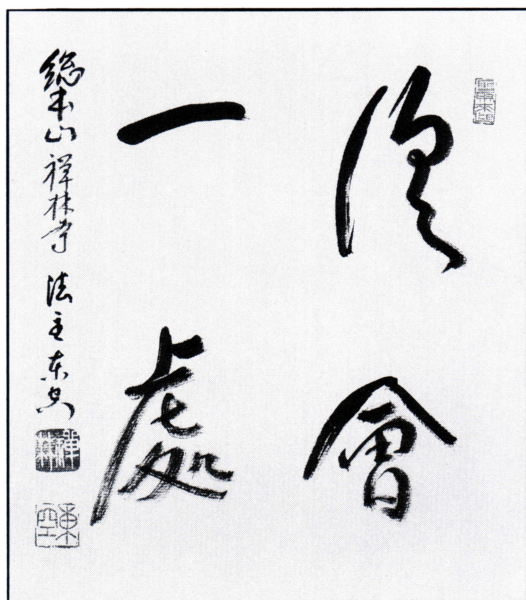
人は、その人の「覚悟」次第で時間の密度は薄くも濃くもなる。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄親下の「ご染筆」です。前号の色紙は、大阪府高槻市在住 久下忠男様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末抽籤で一名に進呈。

俱会一処

— 阿弥陀経 —



あの人

そう

あのひと

そう

そうなんです

あの人

あのひと

語り合えるところだからこそ

そう

同じ蓮華の台はす うてなで

同じ蓮華の台はす うてなで

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄 猊下のご染筆です。前号の色紙は、姫路市在住 河村忠子様に贈呈いたします。

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メー切毎月末抽籤で一名に進呈。

「感恩」

朝な朝な 仏とともに起き
夕な夕な 仏を抱きて臥す

— 安心決定鈔 —



憩いたる石に礼拝遍路起つ^た

四国八十八か所霊場めぐりの遍路の光景です。ひたすら歩き続けてきた旅人が、道の石に腰を下ろし、ひと息ついて疲れをいやし、「休み石」にも感謝の礼拝をしてふたたび遍路の旅に向かうのです。管笠には「同行二人」。

人生もまた同行二人。仏さまとのふたり旅は、信仰を越えた魂のよろこびを与えられます。つねに仏と共にある。この充実感こそ、一步一步、人生の旅路を歩き続ける意欲を燃えさせたせるのです。

せめて、お世話になった人々への返礼に自分もまた誰かの「心の休み石」になりました。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、名古屋市中区在住 山田桂子様に贈呈いたします。ご希望の方は、ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末抽籤で一名に進呈。

悲引恒無絶

慈悲の働きは、

つねに絶ゆることがない。

善導大師『往生禮讃』

悲心引恒
す絶



終南山禪林寺法主永観、

おぼつかない歩みの我が子をじつと見守る若い母親。

年に幾度しかない息子達の帰省を、何時間も、何時間も門辺に立って待つ老いた母親。

待つことはつらい。しかし待たねばならない。その強さこそ母の愛である。

呼ばれずともよい。呼ばればなおさらにすぐに行く。待つとはそういうことである。

その強さは慈悲である。

弥陀もまた我らを待っていて下さる。

いつでも。いつまでも。

終南山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長森準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、愛知県海部郡在住 木村益雄様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月未抽籤で一名に進呈。

莫まく謂い西さい方ほう遠おん
唯ゆい須しゆ十じゅう念ねん心しん

善導大師——往生礼讃——

莫謂西方遠
唯須十念心

総本山 永観堂 禅林寺 法主 永観堂 禅林寺

西方(極樂)は遠しということなけれど、ただ十念の心をもちいよ。

涙なみだを素足すあしで
鳴なき砂すなの音ねを
聞いたことがありますか

貝殻かいがらを耳みみに
潮騒しおさいの音ねを
聞いたことがありますか

深い海の底を歩く

ホウボウの鳴く声を

聞いたことがありますか

かなた西方さいほう
弥陀みだの

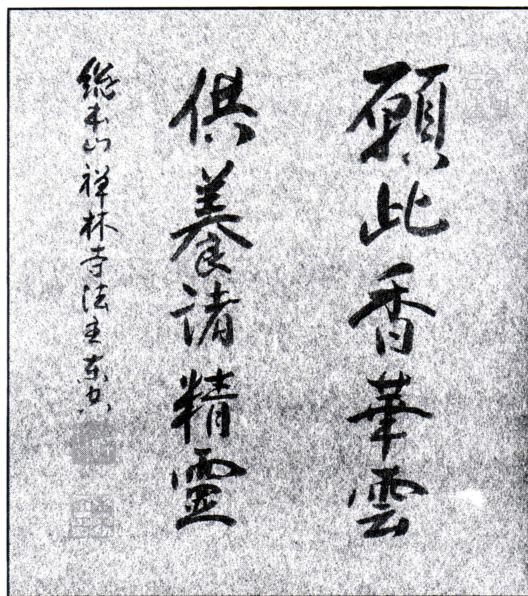
われを呼ぶ声

聞いたことがありますか

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長森準玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜県羽島郡在住 村瀬早苗様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

右の色紙は管長森準玄現下のご染筆です。前号の色紙は、加古川市在住 松澤正枝様に贈呈いたしました。ご希望の方は、ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月未抽籤で一名に進呈。



願わくは この香花の雲と 飲食と 燈明の海をもつて
 もろもろの精霊に供養せん 一一に みな納受したまえ

願此香華雲 飲食燈明海

供養諸精霊 一一皆納受

お別れをして

もう

どれほどになりましたよう

かぐわしい花

好物のごちそうを

お供えいたします

南無阿弥陀仏

灯籠

燭台の蠟燭に

灯りを点します

馥郁と燦る

香を焚き

お供えいたします

どうぞ

こちらへ

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

総本山 永観堂 禅林寺

光明遍照

つきかけ
月影のいたらぬ里はなけれども
ながむる人の心にぞすむ

——法然上人——



法然上人中歌

月影や いさうめ

星は なりれども

なうむる人の

こころもすむ

総本山禅林寺法主東山詩書



十五夜の次の夜を十六夜といひ、立待、
居待、臥待と観月の思ひはやまず月を待つ。
名月を拝み、月を賞でる日本人の心情は、
月の出に先立つ空明かりを仏の来迎とみる
信仰からきていて、月を神聖視して拝する
仏教の伝承が、月見の行事の基となっている。
元禄四年の十六夜、芭蕉が琵琶湖堅田に
舟を浮かべて詠んだ名吟がある。

鎖開けて月さし入れよ浮見堂

堂の扉を開けて、仏さまに名月をご覧い
ただこうというのである。

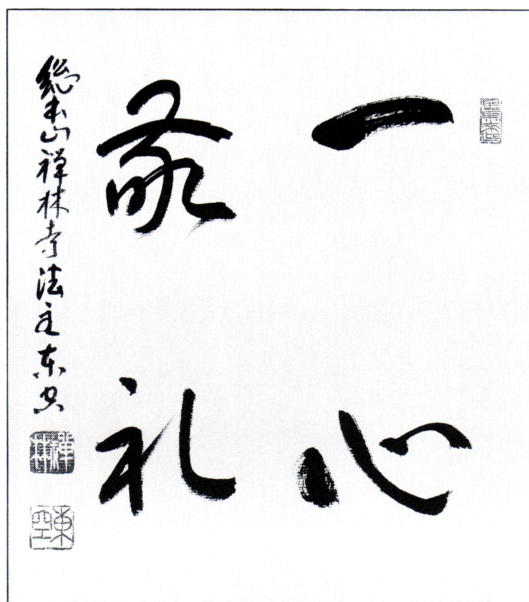
法然上人のお歌は、仏さまの慈悲の働き
を月光にたとえて、「光に照らされて、生
かして下さる力を仰ぎ、与えて下さる恵み
を喜ぼう」と示されている。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄猊下のご染筆です。前号の色紙は、京都市在住 丹羽三根子様に贈呈いたします。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

一心敬礼

— 遵式・往生浄土懺願儀 —



目上の人から先に声をかけられ、お辞儀をされる。あわててこちらも頭を下げ、顔をあげるとまだ下げておられる。芝居なら笑いを誘うが、吾が事であるから恥いってしまう。まして、そのお方の頭をさげる動きの自然さに、その美しさに恐縮する。どうしてそうできるのか。

一心敬礼。

阿弥陀仏が我らを念じるその心に助けられて、わたしもまたすべてのものを敬い礼する。

そこにはおごりも嫌みもなく、たださわかさが残る。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、宇部市在住 北原幸子様 に贈呈いたします。ご希望の方は、ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月未抽籤で一名に進呈。

施
福移
転施
福

総本山 禅林寺法主 永観堂



托鉢の時、いつも必ず布施を上げてくださる方がいる。母娘二人が並んで、優しい言葉をかけてくださる。本当の親子と思っていたら、実はそうではなかった。娘はそれを知っている。

ある日の朝、

「実の親子ではなくても、こんなに幸せ。

和尚さんにお布施を上げるのは、自分の幸せを他の人にも分けてあげたいから。」

と語りかけてきた。

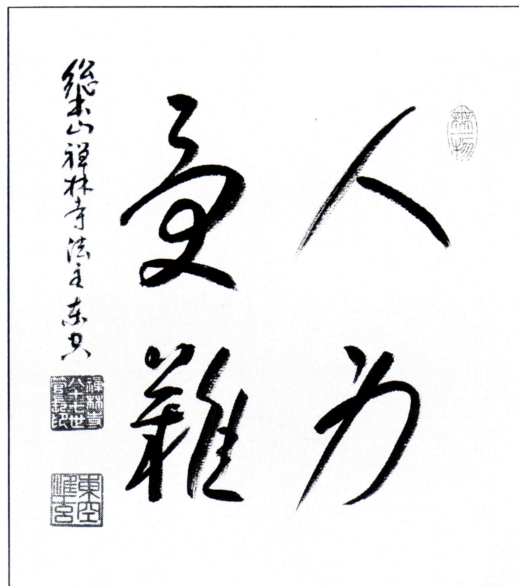
布施は、他人とのつながりの中で、本物になる。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄親下のご染筆です。前号の色紙は、東京都在住 鈴木芳光様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

受け難き人身を受く

(一紙小消息)



若い看護婦さんが足をギブスで固めた患者

さんを支えて歩いている。二人の後ろ姿をお

さめて「生き杖」とその写真は題してある。

顔は見えないが、患者さんのうなだれてい

る頭は歯を食いしばっている様にも、ありが

とうと言っている様にも見える。それに答え

て笑顔でいるのだろうか、小さい体も真摯に

ありがとうと返している。

言うまでもないが、「人」という字は支え

合いの姿。看護婦さんは患者さんの杖となり、

患者さんもまた看護婦さんの杖である。

誰かの杖となって人となる。

皆に支えられて人となる。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は菅長 森 準玄 親下のご染筆です。前号の色紙は、名古屋市在住 笹原 英子 様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。